

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272701053		
法人名	株式会社 サンメディクス		
事業所名	グループホーム あいの里		
所在地	青森県三戸郡南部町小泉下館野7-6		
自己評価作成日	令和元年11月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和1年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、その人らしく、ありのままに安心して生活できるように支援しています。訪問看護と24時間365日連携を図り、身体状況や体調に配慮できるようにしています。主治医や家族と連携を密にし、受診にも対応できるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昔の事を思い出せるような話題を用意して、季節の仕事(干し菜、干し柿作り)等から話を引き出している。演歌や懐かしい音楽の録画を観て歌ったり、DVDを鑑賞したり等、感情を表出できるようなきっかけ作りを工夫している。

また、尿意・便意の感覚を大切にされた排泄介助を支援する等、利用者のリズムを大切にしている。希望があれば一人で居室での食事摂取をしたり、その人らしく過ごせるように配慮している。

職員間で話し合い、意見を出し合って、より良いホームの運営に関わりながら、日々のケアに取り組んでいる。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつも意識できるよう、毎朝の申し送りで唱和して日々意識を持ち、利用者に寄り添った介護ができるように取り組んでいる。	「私たちは家庭的な雰囲気の中で、その人らしく、安心して生活できる『心のケア』をめざします」を理念とし、申し送りで唱和したり、会議の中で確認して日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会や地域の行事にできるだけ参加できるように支援し、交流を図るようにしている。	ホーム周辺を散歩していると地域の方々から声を掛けてもらったり、挨拶を交わしている。地域の祭り見学や敬老会に参加する等、地域住民と交流する機会を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町と災害発生時における「福祉避難所の確保に関する協定書」を締結し、町の防災訓練に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、ホームの運営やサービスの実施状況を報告している。家族代表・利用者代表・地域の民生委員の参加もあり、意見を伺いながらサービスの向上に努めている。	会議ではホームの近況やインシデント、行事、研修内容を報告し、家族や町担当課職員、社協担当者等がそれぞれの立場で質問したり、意見交換をしている。家族の質問から認知症の説明・学習に繋がることもあり、家族の不安解消に役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町担当課や社会福祉協議会の職員にも運営推進会議に参加していただき、会議の報告や相談・情報交換を行っている。	町担当課職員や社協職員が毎回参加している。新しい情報や地域の状況を共有し、不明な点や迷った時はすぐに問い合わせている。役場に全グループホーム事業者が集まり、空き状況の報告や勉強会、懇親会を持ち、意見交換して連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で身体拘束委員会を中心に3ヶ月に1回研修を行い、身体拘束をしないケアを実施している。	マニュアルを整備し、内部・外部研修に参加したり、職員会議の中で3ヶ月毎に学習している。身体拘束は行わない姿勢で日々のケアに取り組んでいる。玄関ドアにセンサーを設置している。外出傾向があれば、見守りや付き添って話を聞いたり、散歩に繋げたり、気分転換を図って対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で説明研修を行い、職員の理解を深めるように努めている。また、虐待が見過ごされることがないように、防止されるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議で成年後見制度について説明、研修を行い、理解を深めるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時や改定の際には書面・口答で丁寧に説明をし、同意を得た上で署名・押印をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話連絡の際、意見や要望を伺ったり、ホーム以外にも伝える事ができる旨を廊下にも掲示している。	面会時や電話連絡の際に暮らしぶりや健康状態を伝えながら、家族から話が聞けるように働きかけている。また、運営推進会議や介護計画の説明の際にも意見・要望を出せるようにしている。毎月の様子は担当職員が手紙を送付して伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議時に事前に意見を集め、提案してもらっている。会議以外でも機会を図って聞き取りし、ホームの運営やケアに反映させている。	月1回職員会議を持ち、交通安全や研修、各委員会の報告、ケア検討、行事等について、意見を出し合い、共有する場として大切にしている。年2回、個人面談を持ち、意見・要望を聞いている。健康診断の中には「腰痛検診」も含まれている。業務内容の見直しや会議開催時間の変更等、職員の意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の就業状況や家庭環境を配慮し、公休等の勤務希望にも沿えるようにしている。女性が多い職場なので、家庭との両立がしやすいよう、残業等はほとんどないように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者からの報告を踏まえ、各職員の力量を把握するように努めている。研修には積極的に参加するように促し、研修の情報を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域や近隣市町村のネットワーク会議やグループ内外の研修に参加することで、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者や家族から不安や要望を聞き取るだけでなく、様子を観察しながら、本人の不安や要望に気付くように努め、信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用する段階で家族の要望や不安を伺いながら話し合い、納得した上で利用をしていただくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に十分に話を伺い、その時に必要なサービスを提供しながら、状況の変化に応じたサービスを提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内では職員・利用者が共に生活できる仲間であることを常に意識して、一緒にできる事は共に行き、支え合う関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況を折りに触れて報告し、利用者との絆に配慮し、利用者と共に支え合う関係が築けるように務めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事や催し物に参加したり、馴染みの関係が途切れないよう、個別の外出支援ができるように努めている。	親戚や友人の面会が比較的多く、電話の取り次ぎや年賀状のやり取り等、これまでの交流を継続できるように支援している。徐々に希望が少なくなってきたが、墓参りや買い物、正月の外泊等、家族と連絡を取りながら、利用者の思いに沿えるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間で情報を共有し、利用者同士が良好な関係を持って生活できるよう、共有空間での座席の配置等に配慮したり、職員が間に入って会話を促し、交流できるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、相談があれば必要に応じ、可能な限り対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりから思いや意向を聞き取るように努め、利用者の意向が確認できない場合は家族より情報を収集し、利用者の思いに沿うように努めている。	昔の事を思い出せるような話題を用意して、話を引き出したり、ニュースや季節の話題を投げ掛け、感情を表出できるよう、きっかけ作りを工夫している。演歌や懐かしい音楽を録画して観て歌ったり、DVDを観て楽しんで過ごしている。利用者が「どうしたいのか」を確かめながら、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	常に利用者一人ひとりから聞き取るようにして、家族からは入居時や面会時にこれまでの暮らし方や生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の利用者の状況変化を記録したり、変化や気づきは申し送り時に報告し、会議の場等で検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が利用者や家族の意向を反映しながら担当職員と情報共有し、介護計画を作成している。	利用者の生活歴や家族、医療機関から得た情報を基に、現状を反映した具体的な介護計画を作成している。職員会議の中でケア検討について職員の気づきや意見を聞き、モニタリングや介護計画に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別介護記録に記入して、その内容から得た情報を共有し、介護計画に反映するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療ニーズが高く、家族対応が困難な場合の際は受診支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者を支えている地域資源を把握し、行事に参加できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームとしてのかかりつけ医はあるが、利用者の気持ちや家族の意向を尊重し、希望に応じて入居前のかかりつけ医に継続して受診できるように配慮している。	入居時にかかりつけ医の継続や往診可能な協力医療機関受診について、利用者や家族の希望を確認している。月1回の往診や週1回の訪問看護師からの健康管理等を行い、安心して生活できるようにしている。受診結果は家族と共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師が来所して毎回、体調や状態を報告している。また、24時間の連絡体制を確保しており、変化があった場合は指示を仰ぎ、連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族と連絡を図り、利用者の了解を得て情報提供書を病院へ提出している。また、退院時については、病院関係者との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合におけるホームの対応に関わる指針を定め、入居時に家族へ説明し、同意を得ている。また、各家族から意向を聞き取っている。	現在は看取り介護を行っていない。家族には入居時に重度化や終末期の対応について説明している。状態変化があれば、家族や医師、訪問看護師と話し合いを持ち、入院や移設の支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が定期的な救命救急講習を受講している。今後も定期的な受講を継続していく。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合避難訓練を実施している。また、地震や水害に備えて、発電機の使用訓練も年2回、全職員で実施して備えている。	年2回、避難訓練を実施している。町と連携し「福祉避難所」として指定を受けており、災害発生時には近隣の高齢者を受け入れる体制になっているため、食料や水は10名分を3日分、備蓄している。発電機の使用訓練も行っている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重した言葉遣いや呼びかけをしている。守秘義務やプライバシーの尊重について研修や話し合いを行い、利用者一人ひとりの権利を大切に支援している。	言動を否定せず、十分に話を聞くようにしている。「さん」付けで呼びかけ、利用者の気持ちを大事にしている。「接遇とコミュニケーション」について研修し、職員間でも利用者の声かけや対応について確認し合っている。個人情報取り扱いについては、事務所内で適切に管理し、配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	対話や傾聴をすることで、利用者が思いを伝えられるように努めている。また、些細な事でも利用者の希望を聞き、自由に選択し、自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせ、コミュニケーションを取りながら、できる限りその人の希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、外部より理容師に来てもらって散髪している。また、その人らしい身だしなみや衣類の選択、おしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は職員が行っており、後片付けや食器拭き等、できる事を職員の見守りにて一緒に行っている。また、残存機能の維持を兼ね、朝食メニューを書いている。	利用者の好みや季節の食材を取り入れ、刻み食やトロミ食等、利用者の状況に合わせた食事を提供している。ボードに朝食メニューを記入してもらったり、皮むきや盛り付け、食器拭き等を職員と一緒にしている。希望があれば居室で食事を摂ったり、利用者個々のペースでゆったりと食事が楽しめるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事や水分の摂取量を利用者毎に記録して、摂取量を把握している。また、常食や刻み食、極刻み食等、各利用者の状態や要望に応じて提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で口腔ケアできる利用者には声がけをして行ってもらい、できない利用者には職員が介助し、全利用者が口腔内の清潔を保持できるように支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄のパターンを把握するように努め、残存機能を活かした排泄介助を行っている。	利用者個々の排泄時間を記録して、排泄パターンを把握している。尿意・便意の感覚を大切にして、利用者個々のタイミングでの排泄介助を行っている。誘導は静かにさりげなく声がけしている。皮膚状態を踏まえて紙オムツの使用を見直している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足により便秘傾向にある利用者には水分を多めに摂っていただくようにしたり、下剤の調整等、利用者一人ひとりに合わせた予防と対応に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	利用者の身体状況を把握し、利用者一人ひとりが安心し、快適に入浴できるように努めている。	週2回のペースで、利用者の希望（一番風呂、湯温等）を聞きながら入浴を支援している。1対1で対応し、同性介助を心がけており、安全で楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の希望に応じて、柔軟に休息をしていただけるようにしている。また、快適な安眠に繋がるよう、生活習慣の見直しを行い、気持ち良く眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の薬の目的や副作用を把握し、服用時には介助や見守りを行っている。また、2週間に1回、主治医に状況変化を報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりに合った役割を持っていただき、できる事を行うことで自信に繋がるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事を企画し、利用者の楽しみ事や気分転換に繋がるように声を掛け、実施している。また、家族と協力し、地域のお祭りや買い物にも出かけている。	季節の行事（花見、祭り）や外食、買い物等、利用者の気分転換や楽しみに繋がる機会を設けている。利用者の状態に合わせて時間・距離を調整しながら、無理のない支援を行っている。外出行事は家族に参加を案内しており、参加を得ている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者や家族の希望を考慮し、利用者の安心感を得られるよう、自己管理を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から要望があった場合は、利用者が電話できるように支援している。また、職員に電話対応依頼があった場合も状況に応じて対応してる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた色合いの物を飾ったり、温湿度計を設置する等、配慮している。また、季節毎の装飾をし、季節感が出るよう、見た目にも楽しくなるように工夫している。	ホールのテレビの前のソファで歌ったり、DVDを鑑賞したり、利用者が集まって楽しめるようになっている。一人で過ごしたい時の場所もあり、思い思いに過ごすことができる。ホーム内の温度は26度を目安に調整している。クリスマスの飾り付けがあり、正月には書初めを掲示する等、季節を感じることもできるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新聞を広げて読んだり、リビングや食堂のテレビリモコンを自由に好きな時間に操作する等して、自由に過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みのあるテレビやラジオの持参、使い慣れた枕の使用等のほか、写真や位牌を飾っている利用者もいる。	使い慣れた物を持って来てもらえるように働きかけている。写真や仏壇、人形、飾り物等を設置して、安心して過ごせる居室となるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室に目印を付け、場所の間違いを無くす工夫をしている。また、夜間、暗くなると自動点灯するライトを利用して、夜間移動の安全に配慮している。		